

昭和大学藤が丘病院 50 周年記念誌

薬剤部

薬剤部長 藤原久登

【歩み】

この 10 年の間、6 代目向後麻里薬局長、7 代目渡邊徹薬局長のもと、薬剤部は日々変化する医療環境に対応しながら、専門性の深化、教育体制の整備、地域連携の強化に取り組んできました。2021 年からは藤原久登が着任し、8 代目の薬剤部長として就任しました。臨床・研究・教育の三本柱を軸に、薬剤師が主体的に医療へ貢献できる体制の構築を進めています。

この 10 年を振り返ると、環境の変化に合わせて組織として着実に進化するとともに、薬剤師の役割が拡大し、より高度な専門性を発揮できる体制が整った時期でした。2015 年 9 月に腫瘍センターにおける薬剤師業務が開始され、がん薬物療法支援体制の構築が進みました。これを契機として、薬剤師がより主体的に臨床現場に参画する体制が整備されました。2018 年 4 月には「薬局」から「薬剤部」へと組織名称を改め、医療チームの一員としての責任と役割をより明確化しました。名称変更とともに組織内の業務分掌や教育体制も見直され、薬剤師が各担当領域で役割を果たしながら、チーム医療に積極的に参画できる体制づくりが進められました。同年、昭和大学附属病院の中で先駆けて感染管理室の抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team；AST）に薬剤師を専従配置しました。これにより、抗菌薬適正使用の体制が整備され、感染症治療の質向上と耐性菌対策に貢献しています。これらの取り組みを通じて、薬剤師はがんや感染症をはじめとする多様な領域の医療に積極的に関わり、チーム医療の中で専門性を発揮しながら、安全で質の高い薬物療法が実践できる体制を築いています。2019 年 4 月には、臨床研修薬剤師の研修期間が 1 年から 2 年に延長され、より長期的かつ体系的な教育プログラムが整備されました。これにより、単に知識を習得するだけでなく、臨床現場での実践を通して問題解決能力や多職種との連携力を養うなど、臨床実践能力をより重視した教育体制が確立され、若手薬剤師が実践的に学び成長できる場となっています。

【最近の取り組みと展望】

薬剤管理指導料（入院調剤技術基本料）の制度が始まった 1988 年当初から、藤が丘病院では薬剤師が病棟業務に積極的に関わり、薬物療法の質向上に努めてきました。2020 年

度までの薬剤管理指導件数は年間 7,000 件前後で推移していましたが、近年ではチーム医療への関与を強化する取り組みが進み、2022 年度は 11,706 件と初めて 1 万件を超え、2024 年度には 13,675 件に達しています。この件数の伸びは、単なる業務量の増加ではなく、薬剤師が病棟チームの一員として治療方針の検討や副作用対策、退院支援などに積極的に参画できる体制を整備してきた成果を示しています。こうした取り組みにより、薬物療法の適正使用への関与が進み、安全性と治療効果の最大化を支えています。

2023 年は薬剤師業務の地域連携を一層推進した年でした。2 月に「チームファーマシスト協議会」を発足し、地域薬剤師会と協働して薬物療法の質向上を目指す連携体制を構築しました。10 月には青葉区および都筑区薬剤師会との間で「院外処方プロトコル」を締結し、地域保険薬局との情報共有がよりスムーズに進みました。これにより、保険薬局と病院間の問い合わせ対応が効率化され、患者安全の確保と地域全体の薬物療法の質向上に寄与しています。2024 年 5 月には、総合サポートセンターに薬剤師を配置し、入院前後の服薬支援や持参薬確認、在宅移行時の情報共有を含めた切れ目のない薬学的支援を実現しました。同年 7 月からは、腫瘍センターにおいてがん専門薬剤師による薬剤師外来を開設し、外来化学療法を受ける患者への継続的な服薬支援・副作用管理を行う体制を整備しています。これらの業務開始により、患者の安全と治療効果の最大化を目指す薬学的支援がさらに強化されました。

また、2024 年 11 月には、「薬剤業務向上加算」の算定を開始しました。本加算は、薬剤師の養成強化とチーム医療の推進、地域医療の発展を目的に設けられ、充実した研修体制を備えた医療機関の病棟薬剤業務が評価される制度です。藤が丘病院は、こうした趣旨に基づき、教育・研修体制の整備や地域病院への出向による実践的な育成などに取り組み、神奈川県内で初めて算定要件を満たした施設となりました。全国でも 2025 年 3 月時点で算定している施設は特定機能病院を含む 17 施設ほどに限られており、藤が丘病院薬剤部のこれまでの組織的な人材育成とチーム医療推進の取り組みが高く評価された結果といえます。

このように、藤が丘病院薬剤部は、病棟業務の質向上と地域連携の強化を中心に、薬剤師が多職種や地域の医療機関と協働し、患者の治療経過全体を見据えた支援を通じて、安全で質の高い薬物療法を実現してきました。臨床現場での実践を重ねながら、教育と地域との協働を通して発展を遂げてきた薬剤部は、今後も病院内外のチーム医療を支え、社会に貢献できる薬剤師の育成に取り組み、新たな 10 年に向けて歩みを進めてまいります。